

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】

令和6年7月30日

評価対象事業		評価者	多様な学びの場づくり担当課長 坂本 卓	
教育-11	相談室事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	多様な学びの場づくり担当
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	4-(3) 学校教育	施策の方針	4-(3)-①教育内容・環境の充実

1 事業の目的

対象	幼児から青少年まで(主に学齢期)の本人とその保護者等
意図	いじめや不登校などの悩みに対し、適切なカウンセリングや、児童生徒を取り巻く環境への働きかけ、関係機関との連携構築等を介して支援を行うため。
効果	いじめや不登校などに悩む対象者が安心して学校生活や、社会生活を送れるようにする。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 主に学校における学習に馴染めない児童生徒に対して興味や関心等に応じた課題探究プログラム(かまくらULTLAプログラム)を提供するとともに、教職員等を対象にプログラム開発に関する研修を実施した。 令和7年(2025年)4月に予定している学びの多様化学校(不登校特例校)設置に向けた準備として、学校の運営方針等に係る検討を実施した。 校内フリースペースの整備に向けて、整備計画の策定等を実施した。
--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	かまくらULTLAプログラムの運営	かまくらULTLAプログラム業務委託等	かまくらULTLAプログラムの述べ参加児童生徒数	54 / 50	50	50	108.0%
				7,292 / 7,400	7,400	7,336	
02	学びの多様化学校(不登校特例校)の設置	学びの多様化学校(不登校特例校)の設置に向けた検討等	-	- / -	-	4,039	
				- / -	-	72	
03	校内フリースペースの整備	校内フリースペースの整備計画の策定等	校内フリースペースに通室する児童生徒数	- / -	-	-	
				- / -	-	-	
			国県支出金	7,292 / 7,400	7,400	7,336	
			財源内訳				
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	/		4,039	
				事業費の合計(千円)	7,292 / 7,400	7,400	11,375
				人件費(千円)		22,788	23,379

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	かまくらULTLAプログラムの運営	かまくらULTLAプログラムが学校における学習に馴染めず、不登校あるいは休みがちになっている児童生徒の学びの場として機能しているかについて効果測定をするため、述べ参加児童数生徒数を指標として設定した。	かまくらULTLAプログラムは学校における学習に馴染めず、不登校あるいは休みがちになっている児童生徒の支援に寄与していると考えており、構成する事業として妥当である。	毎年度一定数の参加者を確保できているものの、事業の認知度が課題となっている。更に多くの不登校児童生徒の学びに繋がるよう、教職員への情報提供や広報かまくら・SNSなどを通じた家庭への情報発信を強化していく。
02	学びの多様化学校(不登校特例校)の設置	学びの多様化学校(不登校特例校)の設置に向けた準備のみを実施したため、成果指標は設定していない。	学びの多様化学校(不登校特例校)の設置により、不登校生徒の支援に寄与することが見込まれることから、構成する事業として妥当である。	スケジュール通りに学びの多様化学校(不登校特例校)を設置するためには進捗管理が不可欠であることから、関係課による情報共有を随時実施していく必要がある。
03	校内フリースペースの整備	令和5年度(2023年度)は校内フリースペースの設置に向けた準備のみを実施。令和6年度(2024年度)から指標を設定するものとする。	校内フリースペースの整備により、不登校児童生徒の支援に寄与することが見込まれることから、構成する事業として妥当である。	校内フリースペースは令和8年度(2026年度)までに全校整備する方針であるため、関係課及び小中学校と緊密に連携していく必要がある。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
	協働	市民等と協働して事業を展開しているか ○.協働実施済 協働実施済の場合のパートナー 株式会社SPACE ロートこどもみらい財団 イケア・ジャパン株式会社

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 改善・変更	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
・不登校児童生徒支援のさらなる充実を図るため、かまくらULTLAプログラムの実施を継続するとともに、学びの多様化学校(不登校特例校)や校内フリースペースの設置・整備に引き続き取り組んでいく。また、これらの学びの場について、当事者である不登校児童生徒(不登校傾向含む)や教職員への情報発信を強化していく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	かまくらULTLAプログラムの延べ参加児童生徒数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
かまくらULTLAプログラムが不登校あるいは休みがちになっている児童生徒の学びの場として機能しているかについて効果測定をするため、延べ参加児童数生徒数を指標として設定した。	目標値	—	50	50	50	50		
	実績値	—	69	87	54			
	達成率	—	138.0%	174.0%	108.0%			

指標(単位)	校内フリースペースに通室する児童生徒数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
校内フリースペースが校内フリースペースに通室する児童生徒数を指標として設定した。	目標値	—	—	—	—	72	136	
	実績値	—	—	—	—			
	達成率	—	—	—	—			

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	不登校児童生徒の割合(上段:小学校、下段:中学校) ※数値は令和4年度(2022年度)、市町村立のみ							
団体名	鎌倉市	神奈川県	全国					
他市実績	1.86%	1.83%	1.70%					
	6.20%	6.12%	5.98%					

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	本市の不登校児童生徒の割合は、神奈川県内及び全国の平均を上回っている状況である。全国的な傾向と同様、本市も不登校児童生徒の割合が増加傾向であることから、継続的に不登校児童生徒支援に取り組んでいく必要がある。
--------------------------	---